

地域に向けた取組について

1. はじめに

平成 22 年度生態系調査報告会及び第 2 回科学委員会において、科学委員会の取組の地元への還元について議論がなされ、それを踏まえて平成 22 年度地域連絡会議にて「地元との連携・協働、科学的知見の地域への還元について」が議題として扱われた。

そのなかで、今後の方向性について、事務局より主に以下の内容を提案した。

- 効果的な広報手法の検討。
- 地元関係団体との連携による普及啓発等の実施の検討。
- 科学委員会による講座（野外での開催も含む）の開催や、生態系調査報告会の地元開催について検討。

2. 平成 23 年度の科学委員会の地域に向けた取組について

平成 23 年度は、上記の事務局提案に基づいて、2 つの地域に向けた取組を実施する予定である。

1) ニュースレター（知床科学委員会しんぶん）の発行

科学委員会及び各 WG 等で議論された内容を、A4 両面のニュースレターとしてまとめて、地元広報を用いて全戸配布するとともに、宿泊施設やビジターセンターなどの主要な利用施設に配布するもの。

各 WG 等で基本的に統一のフォーマットを用いることとしており、策定主体の役割分担は下記のとおり。

会議名称	担当
知床世界遺産地域科学委員会	釧路自然環境事務所（受託者：知床財団）
エゾシカ・陸上生態系 WG	釧路自然環境事務所（受託者：知床財団）
海域 WG	北海道、釧路自然環境事務所
河川工作物 AP	北海道森林管理局（受託者：エコニクス）
適正利用・エコツーリズム検討会議	釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、北海道
ヒグマ保護管理方針検討会議	釧路自然環境事務所（受託者：知床財団）

現時点で、作成されたものは、6 月 12 日に開催されたエゾシカ・陸上生態系 WG に関するもののみ（参考資料 1）。

2) 地元報告会（自然遺産しれとこ「科学教室」）の実施

平成 23 年度は、3 回の地元報告会を予定しており、桜井委員、牧野委員（海域 WG）、中村委員、石川委員の 4 名の方々に講演をお願いしている。

詳細については資料 5 - 2 を参照。



知床科学委員会 しんぶん

エゾシカ・陸上生態系

ワーキンググループ NO. 1

知床世界自然遺産地
域科学委員会

エゾシカ・陸上生態系
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツアーリズム
検討会議

河川工作物
アドバイザー会議

ヒクマ保護管理方針
検討会議



「知床で今何が起きているの!?」「どんな調査が行われているの!?」など、タイムリーな情報をお伝えします。

構成メンバー

- 梶 光一 (東京農工大学 教授 (座長))
- 石川 幸男 (弘前大学 教授)
- 宇野 裕之 (道総研 環境科学 研究センター 研究主幹)
- 川路 則友 (森林総合研究所 北海道支所 長)
- 鈴木 正嗣 (岐阜大学 教授)
- 常田 邦彦 (自然環境研究センター 研究主幹)
- 間野 勉 (道総研 環境科学 研究センター 研究主幹)
- 日浦 勉 (北海道大学 教授)
- 松田 裕之 (横浜国立大学 教授)
- 宮木 雅美 (酪農学園大学 教授)

今回の会議

6月12日 (日)
釧路市生涯学習センターで今年度第1
回目の会議がありました。

エゾシカ ワーキンググループって?

知床半島において、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。
この会議で出された意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

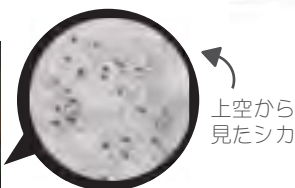
必見! TOPIC

エゾシカは増えているの?

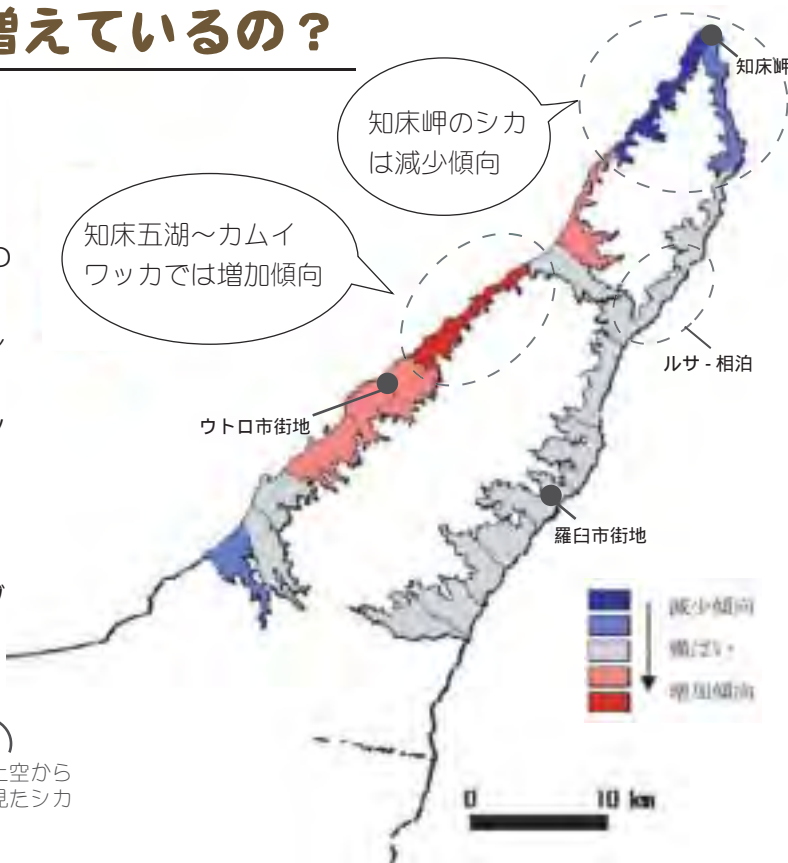
2011年2月、ヘリコプターからエゾシカの数把握する調査を行いました。

その結果、知床半島全域で計3930頭のエゾシカを確認しました。(調査では見落としが発生するため、実際にはさらに多くのシカが生息しているはずです。)

2003年の前回調査と比べると、エゾシカの数、斜里側の知床五湖～カムイワッカ地域で増加した一方、羅臼側で横ばい状態、知床岬では減少していることが確認されました。知床岬では、2008年からエゾシカの捕獲を行っており、その効果が出ていると考えられます。



上空から見たシカ
ヘリコプターを使って上空からシカの数をかぞえている様子



知床半島におけるエゾシカ個体数の増減

※2003年と2011年に実施したヘリコプターカウント調査をもとに作成。

今回話し合ったこと

- ① エゾシカに係わる事業の報告と予定
- ② 遺産地域内でのエゾシカの捕獲について
- ③ エゾシカ管理計画の見直しについて
- ④ 個体数調整に関する植生指標について

注目!

エゾシカに係わる事業の報告と予定

会議では、昨シーズン、知床半島で計920頭のシカが捕獲されたことが報告されました(有害捕獲のみ、狩猟による捕獲を除く)。シカによる植生への影響を緩和するためには、捕獲頭数のさらなる上積みが必要ですが、そのためには超えるべき課題がいくつもあります。効率のよい捕獲手法を開発することが重要ですが、銃を使用してシカを捕獲する場合は、シマフクロウやオジロワシといった

希少猛禽類への配慮が必要で、ルサー相泊地区で導入が検討されている、道路を移動する車上から銃を発砲する捕獲方法を実現するには、特別な許可を得る必要があります。会議では、これらの問題とどのように整合性を取り、今シーズンのシカの捕獲を進めていくのか意見交換が行われました。

注目!

遺産地域内でのエゾシカの捕獲について

〜幌別〜岩尾別地区〜

この地区は2011年冬のカウント調査で約1200頭のシカが確認されており、知床半島でもシカの生息数が特に多い地域です。一大観光地の知床五湖や斜里町が進める100平米運動が行われているこの地区で、

どのようにシカを効率よく捕獲するのか、会議では捕獲手法やその組み合わせについて検討が行われました。

提案された捕獲手法は、餌を使ってシカを柵の内側に誘い込み、扉を閉めて捕獲する罠いワナや足にワイヤをかけてシカを捕獲するくくりワナ、麻酔薬でシカを眠らせて捕獲する麻酔銃による捕獲手法、餌付け場に出てくるシカを銃で捕獲する手法(SS)、銃を構えたハンターがいる場所へシカを追い込んで捕獲する手法(巻狩り)などです。

また、北米で実践されている大型罠いワナについて紹介があるなど、効率のよい捕獲を実現するため真剣な話し合いが行われました。

会議の結果、この地区では捕獲の試行を始める前に1年間かけ、野外検証を行いながら、効率のよい捕獲手法(実施場所や捕獲手法の組み合わせなど)を探っていくことになりました。



昨シーズン、SSでは25頭、罠いワナでは113頭捕獲されたそうです。(ルサー・相泊地区)

ルサー相泊地区では、餌付け場に出てきたシカを銃で捕獲する手法(シャープシューティング、略称SS)(上)や、罠いワナ(下)による捕獲が試行されました。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!



■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所
 〒085-8639
 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階
 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

座長の幌
 です。



今から30年前の根室標津でシカ研究を始め。以来、洞爺湖中島、日光でシカ研究に従事しています。

江戸時代に松浦武四郎が作成した北海道地図には、知床の小沢まで含めて詳細な地名が記されています。昭和の初期まで知床岬に集落がありました。この世界自然遺産地域においても、古来から人々はシカを含めた自然資源を利用してきたと考えられます。地に溢れんばかりのシカたちとどう立ち向かうか、新しい仕組みづくりが求められています。

座長 幌光一